平成28年度　学校合気道
実技指導者講習会　実施要項

1　目的

平成24年度より実施された中学校保健体育における武道の必修化を踏まえ、保健体育科教員及び運動部活動指導者（外部指導者を含む）に対し、合気道の指導者としての資質向上を図るための講義・協議及び実技指導等を行い、学校における武道指導の充実に資する。

2　主催

スポーツ庁、公益財団法人合気会

3　期間

平成28年8月17日（水）～8月18日（木）

4　会場

①実技・講義会場
公益財団法人日本武道館
〒102―8321　東京都千代田区北の丸公園2番3号
TEL：03―3216―5100（代表）

5　参加対象

中学校及び高等学校の保健体育科教員及び学校における運動部活動（合気道）の指導者。
今後、中学校及び高等学校において合気道の指導を行う可能性のある合気道経験者。

6　内容

(1)解説
「学校体育における武道指導の在り方について」
スポーツ庁政策課教科調査官　高橋修一

(2)講義
「スポーツ事故の法律問題―武道関係の裁判例からみる注意義務―」
国際武道大学体育学部特任教授
富澤輝男
国際武道大学体育学部武道学科教授　立木幸敏

(3)実技
①「1年生の学習内容（5時間の授業内容として）」
（公財）合気会合気道本部師範　金澤威
②「2年生の学習内容（5時間の授業内容として）」
（公財）合気会合気道本部道場指導部道場指導部指導員　日野皓正

(4)全体討議・質疑応答
コーディネーター（公財）合気会事務局　藤本光海
司会進行（公財）合気会会渉外部長　栗林孝典
参加者アンケート・集計・解析
帝京平成大学現代ライフ学部経営マネージメント学科トレーナー・スポーツ経営コース講師　園部豊

7　日程（別表）

《問い合わせ先》
公益財団法人合気会（担当：栗林、鈴木俊雄、藤本）
TEL：03―3203―9236

日程

	10:30	11:00	11:15		12:45	13:45		15:15	15:30	17:00
第1日 8月17日 （水）		受付	開講式	解説 【学校体育における武道指導の在り方について】 髙橋　修一	休憩・昼食	実技① 【1年生の学習内容(5時間の授業内容として)】 金澤　威		休憩	実技② 【2年生の学習内容(5時間の授業内容として)】 鈴木　俊雄	

	10:00		11:30	12:30		14:00	14:15		15:00	15:30
第2日 8月18日 （木）	実技③ 【3年生の学習内容(5時間の授業内容として)】 日野　皓正		昼食	講義 【スポーツ事故の法律問題-武道関係の裁判例からみる注意義務-】 富澤　輝男 立木　幸敏		休憩	全体討議・質疑応答		閉講式	

武道授業
実践の概要紹介

広島県広島市における
相撲授業の普及に向けた取組

広島市教育委員会

広島市は、広島県の南西部にある広島平野に位置し、人口119万人を要する政令指定都市である。

昭和20年（1945年）8月6日、人類史上初めての原子爆弾が投下され、まちは焼け野原になり、「75年間は草木も生えぬ」と言われた。しかし、その後、多くの市民の大変な努力によって、広島市は、水と緑あふれる美しいまちとして復興し、被爆70周年を迎えた現在、国際平和文化都市として平和へのメッセージを全世界に発信している。

広島市は、平成6年（1994年）に開催したアジア大会を契機に、全国大会を開催することができる陸上競技場や体育館等の施設を整備しており、また、広島東洋カープやサンフレッチェ広島、JTサンダース等、多くのプロスポーツチームの試合を観戦できるなど、スポーツが盛んな都市としても有名である。

1 はじめに

本市は、現在、市立中学校64校（中等教育学校・前期課程を含む）を設置しており、約2万9000人の生徒が在籍している。

教育委員会では、新しい学習指導要領の全面実施となった平成24年度の中学校武道必修化に向け、平成21年度から3か年計画で、全市立中学校の保健体育科担当教諭全員を対象として、柔道、剣道の実技研修及び武道授業の安全管理に関する研修を実施した。

特に、柔道を実施する学校の教員については、必ず担当教諭が、研修等を受けてから授業を行うことを徹底するなど、万全の体制を取ってきた。

2 武道必修化に向けた取組の課題

学習指導要領では、「武道の運動種目は、柔道、剣道又は相撲のうちから1種目を選択して履修できるようにする」こととなっている。平成23年5月に実施した武道授業実施状況調査では、柔道のみを実施する学校が31校、剣道のみを実施する学校が28校、柔道と剣道の両方を実施する学校が5校となっており、相撲を実施する学校はなかった。

指導にあたる保健体育科教員のアンケート調査によると、相撲を実施しない理由として「取り入れてみたいが、学習内容、指導方法がわからない」「自分自身が、相撲を経験していない」などの回答が多かった。そのため、武道授業の更なる充実を図る観点から、各学校が相撲を含めた3つの種目の中から選択できる環境を整備することが課題となっていた。

原爆ドーム（写真提供：広島市広報課）

3 課題解決に向けて

(1)指導方法の工夫・改善に向けた取組

本市では、平成19年度から体力向上推進校を市立小・中学校4校程度指定し、保健体育科の授業改善や、体力向上に資する取組の実践研究を行い、その成果を全市立小・中学校に普及してきた。

相撲の授業を取り入れるに当たり、モデル校として、体力向上推進校の古田中学校（平成24・25年度）と観音中学校（平成26・27年度）の2校を指定し、相撲の指導方法の工夫・改善に向けた取組を行うこととした。両校に対しては、まず始めに、生徒が安全に留意し、積極的に「相撲」の授業に参加できるよう、相撲マットを配置した。

次に、相撲を通して、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度、コミュニケーション能力などの育成を図るため、ＩＣＴを活用し、仲間と協働し、課題を発見し解決する授業改善の研究に取り組んだ。次頁資料1に、実践授業の様子を示す。

(2)教員の指導力向上に向けた取組

教育委員会では、平成25年度より毎年、保健体育科教員を対象に、相撲の授業における指導内容・方法や事故防止への対応について、周知徹底するための実技研修会を行っている。参加した教員からは、「生徒が興味を持つのか、指導ができるのか不安であったが、実際にやってみると楽しく感じることができた」「本校でも相撲を実践してみたいと感じた」等、相撲という種目を肯定的にとらえた意見が多かった。

この研修により、相撲の授業に対する教員の不安が払拭されるのみならず、相撲の授業を実践する教員の意欲や、相撲の授業の実施による教育効果の理解も進んでいる。

(3)関係団体との連携

本市では、平成20年度より毎年、大相撲広島場所実行委員会会長の岩田満久氏をはじめ、関係者の方々のご厚意により、「秋巡業『大相撲広島場所』」に、市内小・中学生を無料で招待していただいている。

参加した児童生徒からは、「体の大きな力士を間近に見たり、郷土の力士を応援したりすることで、今まで相撲にあまり馴染（なじ）みのなかった相撲に興味が持てた」「相撲の素晴らしさを実感できた」など、各校から喜びの声が届いている。

相撲の授業を実施している学校にとっては、力士の作法や所作などから、礼節を重んじ、相手を尊重する態度などを学ぶ絶好の学習機会となっている。

また、広島県相撲連盟などの関係団体から相撲の授業を実践している学校に対し、相撲マットの無償貸与、指導資料「中学校体育相撲指導の手引き」の提供などの支

〈研修会の主な内容〉

（講義）

・相撲の特性と指導内容
・単元計画の作成と留意点

（実技）

・礼法や基本動作
・効果的な指導方法とそのポイント
・指導上の安全管理　　等

実技研修会の様子

援を受けており、市内中学校の相撲授業の普及・展開への大きな原動力になっている。

さらに、本年度は、観音中学校に日本相撲協会から、３名の力士を外部講師として招き、生徒が実際のまわしを着用して授業を受ける機会を設けていただくことができる予定である。

指導資料「中学校体育相撲指導の手引き」

秋巡業「大相撲広島場所」

４　取組の成果

この４年間の取組により、これまでに４校（観音中、古田中、井口中、瀬野川東中）が相撲の授業を実施している。平成23年度時点で、相撲の授業実践がなかった本市にとっては、大きな前進と言える。

実施校では、様々な指導の工夫が行われており、特に、ＩＣＴ機器（タブレット）を活用し、生徒が自己や仲間の良い動き方を見付けたり、自分の技と仲間の技の違いを比較したりすることにより、技能の向上を図る指導が行われている。

これにより、運動に苦手意識を持っていた生徒が、タブレットを使って自分の課題となっている動きを確認し、試合や練習に臨む姿が多く見られるようになった。

こうした相撲の授業における指導方法の工夫・改善は、柔道や剣道の授業にも応用され、武道の授業全体の充実にもつながっている。

また、相撲実践協力校である観音中学校では、外部指導者を招へいし、相撲の礼法や、基本動作、基本となる技の直接指導を受けさせる取組も始まっており、生徒の相撲への理解を一層深めるよい機会となっており、今後も、こうした外部指導者から指導を受ける機会を充実させたい。

さらに、毎年、教育委員会が相撲の研修会を開催していることで、相撲の指導内容・方法を伝達できる教員の数は増加傾向にあり、今後、実施校が拡大することが期待できる。

今後とも、こうした様々な取組の一層の充実を図り、武道を通じた人間形成に努めていきたい。

練習方法について話し合う様子

相撲授業の様子

資料１　実践授業の様子

第３学年男子　「領域Ｆ　武道　相撲」（９時間/１２時間）

（本時のねらい）

上手投げ・下手投げを用いて、簡易な試合で攻防を展開できる。

上手投げ・下手投げの技を身に付けるために、①脚の開き方、②手の使い方の２点を視点に、各グループで練習を行い、その後、技術的課題を見付け、改善策を話し合う場面。

（生徒の様子）

- 練習の際に、投げ技の相手を引き受けたり、仲間の課題を指摘したりするなど、互いに助け合い教え合おうとする姿が多く見られた。
- 自己の技能、体力の程度に応じて、自己に適した攻防の仕方を選んだり、仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘したりする姿が多く見られた。

課題を把握する場面　実際に技を試してみる場面（練習や簡易な試合）　課題や解決策を共有する場面（話し合い活動）

（運動が苦手と思われる生徒の状況）

①［A君：どのように体を動かしてよいか分からない生徒］

≪課題≫
- 左手で上手投げを行う際、右足を大きく開くことができず、体のバランスが崩れその場に倒れてしまう。

≪改善後≫
- タブレットを活用し、何度も自己や仲間の動きを観察して比較しながら、手や足の運び、最初に相手に寄る動作を一つ一つ確認して練習を行うなど、主体的に学習する状況が見られた。
- バランスを崩してその場に倒れることが少なくなり、体格が同じくらいの生徒との試合では、優位に攻防を展開できる場面も見られた。

A君の授業後の学習カードの記述

手にばかり意識がいくと足の開きが遅れてしまい、よくバランスを崩して倒れてしまいましたが、右手のひじを下の方に曲げながら引くと同時に、大きく右足を開くことで、体のバランスを崩さず安定して投げることができ、技の形を覚えることができました。

②［B君：相手との仕切りを恐れ、すぐに相手にまわしをとられてしまう生徒］

≪課題≫
- 腰が高く、仕切りと同時にすぐにまわしを取られ、寄り切られてしまう。
- 腰が引けてしまい、手が相手のまわしにかからない。

≪改善後≫
- 仲間のアドバイスや観察結果を参考に、仕切りと同時に腰を引かずに低い姿勢で受けることができ、簡単に寄り切られる場面が少なくなった。

B君の授業後の学習カードの記述状況

仕切りの時に、低い姿勢で受けることで、相手にまわしをとられることが少なくなった。無理に技を掛けようとせず、相手にしっかりと寄り、体勢を整えて次の展開を考えていきたい。